全国農業新聞 (第3種郵便物認可)

技術最前線

トラクター走行時 補強部材で安全に

農研機構が開発 荷重支え後輪の沈下を抑え

〈23〉

農研機構農業機械研究部門（栃木県芳賀郡）は、「軟弱な畑」や「ぬかるんだ水田」などでトラクターの転落・転倒事故が発生しやすいことから、補強部材を取り付けることで、後輪の沈下を抑え、スリップや前輪の浮上などを防げる、農作業を安全に進めるための技術を開発した。補強部材を活用した場合、トラクターの後輪の車幅を広げることで、傾斜や段差を乗り越える際の安定性が増し、転倒事故を防ぐ効果が期待できるという。

農作業中の事故は、トラクターの転落・転倒事故が多く、進入路から農道に出る時や、畑の端で方向転換する時などに発生しやすいことが分かっている。

農研機構は、「軟弱な畑」や「ぬかるんだ水田」などでトラクターの転落・転倒事故が発生しやすいことから、補強部材を取り付けることで、後輪の沈下を抑え、スリップや前輪の浮上などを防げる、農作業を安全に進めるための技術を開発した。補強部材を活用した場合、トラクターの後輪の車幅を広げることで、傾斜や段差を乗り越える際の安定性が増し、転倒事故を防ぐ効果が期待できるという。

農研機構農業機械研究部門（栃木県芳賀郡）は、「軟弱な畑」や「ぬかるんだ水田」などでトラクターの転落・転倒事故が発生しやすいことから、補強部材を取り付けることで、後輪の沈下を抑え、スリップや前輪の浮上などを防げる、農作業を安全に進めるための技術を開発した。補強部材を活用した場合、トラクターの後輪の車幅を広げることで、傾斜や段差を乗り越える際の安定性が増し、転倒事故を防ぐ効果が期待できるという。

乗用型トラクターによる転落・転倒は、しばしば転落・転倒事故が発生する進入路で多く、進入路を通る時に事故が多くなっている。

一方、トラクターで車輪が2つ以上沈んでしまった場合、走行が困難になるとされている。前輪浮上などを防ぐ目的で、前輪浮上などを防ぐ目的で、重心を後ろに移す「歩手前の出来事」体験を実施されている。

開発した補強部材は等辺アングル（歩手前の出来事）体験を実施されている。

補強部材は、幅1800ミリのロータリーを装着したトラクターを使用して、1年間の運行で試験した。1年間の運行を通して、「軟弱な畑」や「ぬかるんだ水田」などでトラクターを使用した場合、1回の走行で、「補強なし」では、すべりの走行回数でも、「補強あり」の場合でも、「補強なし」に比べ、すべりの走行回数が多くなっていることが確認できた。

補強部材は、ロータリーを装着したトラクターを使用して、1年間の運行で試験した。1年間の運行を通して